

【草津町】
校務 DX 計画

1. 校務 DX を推進する上での現状と課題

令和 6 年度「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果によれば、本町の現状は、群馬県全体の平均を上回っている。

校内での資料共有・情報共有のデジタル化は、汎用クラウドツール等の活用や、校務支援システムを整備したことで、すべての学校がデジタル化を取り入れており、欠席連絡など、保護者との連絡もデジタル化されている。

FAX は原則廃止となっているが押印の廃止には至っておらず、依然として紙ベースの業務が根強く残っている。

2. 校務 DX を推進するための課題解決策

令和 7 年度より、県域共同調達で学校デジタル基盤(校務支援システムと汎用クラウドツール)の導入が検討されており、本町も参画に対する検討を行う予定。

県域のデジタル基盤に参画することで、校内、学校と保護者間、学校と児童生徒間のデジタル化の基盤が整備されるとともに、県域で活用事例や先進事例が共有され、本町でもそれらを取り入れることで教員の多忙化解消等に資するためのデジタル活用を積極的に進めたい。

また、校務の効率化・ペーパーレス化の阻害要因である押印の見直しを進めるとともに、セキュリティポリシーの制定や、要録の電子保管等の課題についても、県域の事例を参考として検討を深める。

3. 次世代校務 DX 環境の整備について

圏域共同調達によるデジタル基盤の導入について、参画に対する検討を行う。

校務用 P C の定期的な更新とネットワーク環境の最適化を行い、望ましい公務の在り方について調査・研究を進め、教職員の事務負担軽減を図る。